

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SPMP2155
2. 授業担当教員	三田 真外		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解し説明できる。</li> <li>・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助の理念について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。</li> <li>・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習の理解度をみるレポート課題 (1500字以上) と確認テストを数回実施する。レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。その他、授業の進行状況に応じて指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』第 3 版 中央法規出版、2015。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講態度・参加姿勢 40% (全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻 (10 分程度迄) は 3 回で 1 回休みとなる。</li> <li>2. 筆記試験とレポート試験を行う。60%</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し、説明できる。</li> <li>2. 相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>3. 相談援助の理念について理解し、説明できる。</li> <li>4. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>5. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。</li> <li>6. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は、相談援助の概念と理念を学び、専門職としての行動の基礎を身に付けることを目的としています。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んで欲しいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する (した) 場合は書面で教員に届け出ること。</li> <li>2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。</li> <li>3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	初回の講義において発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション シラバス、講義概要、試験・レポート課題についての説明	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク I のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第 2 回	社会福祉士の役割と意義 (1) ソーシャルワーカーの仕事、法律、社会福祉士の専門性	事前学習	教科書 pp. 2~7 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカーとは何か、その専門性について、講義の要点をノートにまとめる。
第 3 回	社会福祉士の役割と意義 (2) 現代社会とは、地域での生活、地域や家庭内で起きていること	事前学習	教科書 pp. 8~12 を読んでくること。
		事後学習	地域社会の問題について、講義の要点をノートにまとめる。
第 4 回	社会福祉士の役割と意義 (3) 人々の人生とソーシャルワーカー、チームアプローチの必要性、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識	事前学習	教科書 pp. 12~22 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉士の実践内容について、講義の要点をノートにまとめる。
第 5 回	相談援助の定義と構成要素 (1) 国際ソーシャルワーカー連盟の定義とその他の主だった定義	事前学習	教科書 pp. 24~36 を読んでくること。
		事後学習	IFSW の定義について、講義の要点をノートにまとめる。

第6回	相談援助の定義と構成要素(2) クライアントシステムとニーズ	事前学習	教科書 pp. 37~40 を読んでくること。
		事後学習	クライアントのニーズについて、講義の要点をノートにまとめる。
第7回	相談援助の定義と構成要素(3) ソーシャルワーカーの知識・性質・スキル、社会資源)	事前学習	教科書 pp. 41~49 を読んでくること。
		事後学習	社会資源の活用について、講義の要点をノートにまとめる。
第8回	中間まとめ1 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第1回から第7回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第9回	相談援助の形成過程(1) ソーシャルワークの源流、基礎確立期 ~1930年代	事前学習	教科書 pp. 52~67 を読んでくること。
		事後学習	COS・セツルメント・YMCA の実践について、講義の要点をノートにまとめる。
第10回	相談援助の形成過程(2) ソーシャルワークの発展期、1940年代 ~1950年代半ば	事前学習	教科書 pp. 70~77 を読んでくること。
		事後学習	リッチモンドのケースワーク、社会診断の考え方について、講義の要点をノートにまとめる。
第11回	相談援助の形成過程(3) ソーシャルワークの展開期、1950年代 半ば~1960年代以降	事前学習	教科書 pp. 78~85 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークの歴史について、講義の要点をノートにまとめる。
第12回	相談援助の形成過程(4) ソーシャルワークの統合化とジェネラ リストソーシャルワーク	事前学習	教科書 pp. 86~91 を読んでくること。
		事後学習	ジェネラリストソーシャルワークとは何かについて、講義の要点をノートにまとめる。
第13回	相談援助の理念(1) ソーシャルワーク実践と価値	事前学習	教科書 pp. 94~106 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカー専門職として身につける価値について、講義の要点をノートにまとめる。
第14回	相談援助の理念(2) ソーシャルワーク実践と権利擁護	事前学習	教科書 pp. 107~120 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーク実践と権利擁護の関連について、講義の要点をノートにまとめる。
第15回	相談援助の理念(3) 自立支援、社会的包摂、ノーマライゼ ーション	事前学習	教科書 pp. 122~135 を読んでくること。
		事後学習	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて、講義の要点をノートにまとめる。
第16回	専門職倫理と倫理的ジレンマ(1) 専門職倫理の概念、日本社会福祉士会 倫理綱領及び行動規範	事前学習	教科書 pp. 138~149 を読んでくること。
		事後学習	提示される日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範に関する事例の課題を行う。
第17回	専門職倫理と倫理的ジレンマ(2) ソーシャルワーク実践における倫理的 ジレンマ	事前学習	教科書 pp. 150~158 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第18回	中間まとめ2 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第8回から第17回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第19回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像 (1) 総合的かつ包括的な相談援助の動向と その背景	事前学習	教科書 pp. 160~163 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉基礎構造改革がもたらした新たな援助状況と求められる専門的援助について、講義の要点をノートにまとめる。
第20回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像 (2) 地域を基盤にしたソーシャルワークの 基本的視座	事前学習	教科書 pp. 164~174 を読んでくること。
		事後学習	組織化について、講義の要点をノートにまとめる。
第21回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理 論(1) ケースワーク、グループワーク、コミ ュニティワークと、ジェネラリストソー シャルワーク	事前学習	教科書 pp. 176~180 を読んでくること。
		事後学習	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークとジェネラリストソーシャルワークとの関係性について、講義の要点をノートにまとめる。
第22回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理 論(2) システム思考とエコシステム	事前学習	教科書 pp. 180~183 を読んでくること。
		事後学習	システム理論、エコロジカル理論について、講義の要点をノートにまとめる。
第23回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理 論(3) ストレンクス・パースペクティブ、マル チシステム	事前学習	教科書 pp. 183~187 を読んでくること。
		事後学習	ストレンクスについて、講義の要点をノートにまとめる。
第24回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲 (1) 相談援助専門職の概念	事前学習	教科書 pp. 190~198 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークになぜ専門性が必要なのかについて、講義の要点をノートにまとめる。
第25回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲 (2) 相談援助専門職の範囲、諸外国の動向	事前学習	教科書 pp. 199~214 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカーのフィールドについて、講義の要点をノートにまとめる。

第26回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(1) 予防機能 事例検討 地域包括支援センターにおける実践	事前学習	教科書 pp. 190～228 を読んでくること。
		事後学習	孤独死について、ソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第27回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(2) 新しいニーズへの対応 事例検討 独立型社会福祉士の実践、スクールソーシャルワーカーによる総合支援	事前学習	教科書 pp. 229～259 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントについて、講義の要点をノートにまとめる。
第28回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(3) 権利擁護機能 事例検討 知的障害者施設における権利擁護の実践	事前学習	教科書 pp. 260～269 を読んでくること。
		事後学習	知的障害者の権利侵害について、ソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第29回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(4) 社会資源開発機能 事例検討 社会福祉協議会による社会資源開発	事前学習	教科書 pp. 270～275 を読んでくること。
		事後学習	市町村社会福祉協議会の機能と業務について、ソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第30回	まとめ	事前学習	第18回から第30回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	これまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
期末試験			